



音楽学校 MI JAPAN × 目黒郁也

School of Contemporary Music. MUSICIANS INSTITUTE

動画運動

<http://www.mi-japan.com/>

ベーシストの“必須事項”を伝える短期集中レッスン!

講師 目黒郁也



自分のベース・プレイを気持ちよく聴かせるには? また、プレイの表現力をつけるためにはどうすればよいでしょう? その答えはズバリ、“ベースを歌わせる”こと。本連載では、第1回亀田杯のグランプリであり、セッションで活躍する目黒郁也が、3回にわたって“歌うベース”を伝授!

音楽学校MI JAPANについて

MI JAPANは世界屈指のギター・メーカー株式会社ESPを母体とし、アメリカ/ハリウッドに本校を持つ音楽学校です。ハリウッドの運営基盤と日本の音楽業界のニーズをミックスしたレッスン方針を確立し、プロとして活躍できる人材を多く輩出していることで業界から注目を集めています。

第1回 ベースで歌う! アーティキュレーションの妙

INTRODUCTION

皆さんこんにちは、目黒郁也です。今回より、数回にわたり連載させていただきます。よろしくお祈りします☆早速ですが、この連載のテーマは“歌うベースとは?”です。お客さんやミュージシャンから、さらには亀田杯でも亀田誠治さんから、“ベースが歌っている!”と、大変嬉しい言葉をいただきました。そもそも、“ベースなのに歌う!”と思うか

もしれませんが、ヴォーカリストが体から声を出して歌うように、僕らベーシストは、ベースの音を“声”として表現していると思います。人に個性があるように、ベースの音や表現にも違い(個性)があります。手の大きさや指の形、弾き方による違いが関係しているのも事実です。しかし、これはどうしようもありません(笑)。それよりも、素晴らしい音楽に触れて、体や頭のなかに吸収されたものが、

自分とベースを通して表現されることのほうが重要であると僕は考えます。そして、吸収した情報をベースで表現するには、もちろん技術と練習が必要。この連載を通じて、僕なりの弾き方、音、そして表現方法や考え方を伝えていきたいと思っておりますので、ひとつの練習方法として興味を持っていただくと嬉しいです。ベースに対する僕の熱い想いを感じてください(笑)。

Chapter 01 リズムの感じ方でグルーブは変わる!?

というわけで早速、ソロ・ベース、行きます!! (笑) 今回は、賛美歌として有名な楽曲であり、ヴィ

クター・ウッテンがスーパー・プレイでカバーしていることでも有名な「アメイジング・グレイス

(Amazing Grace)」を題材に、私、目黒郁也らしいアプローチを試してみようと思います。

Chapter 02 さまざまな技を駆使してニュアンスを表現する!

ヴィブラートを使い分けよう!

まず最初に紹介したいテクニックは、“歌う”うえで非常に重要なヴィブラート! 楽曲に色づきをプラスするうえで欠かせない存在です! 上譜例は冒頭の8小節ですが、このなかでも①横ヴィブラート(小)、②縦ヴィブラート(中)、③縦ヴィブラート(強)と、大まかに3種類のヴィブラートを使い分けています。“横ヴィブラート”は弦を押さえた状態で、指を左右にゆくり揺らします。“縦ヴィブラート”は、少し力が必要ですが、チョーキングして弦を上下させるイメージです。僕はメロディや特徴のあるフレーズを弾くときには、必ず

ヴィブラートをかけます。曲調により臨機応変にかけますが、ときにはピッチが危うくなるほど、大胆にかけることもありますよ!!

ハンマリング・オン、スライド、プリング・オフを巧妙に混ぜよう!

これらの技は、おもには1、5、9、13小節目に登場します。もはや手くせなので、説明は難しいのですが(笑)、このテクニックを使用するうえで気をつかうことは、音符の切り方(長さ)と左指を動かすスピードです。ちなみに、このテクニックを駆使するうえで、僕が一番影響を受けたのは、マーク・ミラーです。スラップの素晴らしさは言うまでもあ

りませんが、彼の指弾きによるソロや、フレットレスを弾く際の絶妙なニュアンスとグルーブは、まさに世界最高レベルだと思っています。「フォエヴァーモア」(アルバム「テイルズ」収録)のフレットレスは必聴です!

ベースで出せる音はどんどん使おう!

フレットに弦が当たって発生する“バズ”も活用できます。弦高の具合やピッキングの強さによって生まれるサウンドです。人によっては嫌う人もいますが、ジャンルによっては楽曲の邪魔をしないので注意が必要かも……ただ、僕はゴーストノートを入れる際にバズを混ぜることによって出る、パーカッシブなアタック感が好きなので、多用します。

次に、4小節目に出てくる“人工ハーモニクス”。ウェザー・リポート「バードランド」での、ジャコ・パストリアスの人工ハーモニクスはあまりにも有名ですね。僕も大、大、大影響を受けております!! 押さえたポジションとブリッジのちょうど真ん中に、右手親指を軽く当てて、人差指でピッキングします。これはコツをつかむしかありません(笑)。

最後に7小節目に出てくる“ハーフ・ミュート親指弾き”は、ヴァイオリンを指で弾くピチカートイメージしました。親指で弾くので音は丸くなりますが、ミュート具合によって、さまざまなニュアンス表現ができますし、親指は太くて本当に良い音が出ます。普段から使い分けると良いかも!

Chapter 03 さらに“歌う”ための奏法アレンジ

和音で彩りを!

左ページ譜例の11小節目からは、原曲にはない、僕なりの和音アレンジにしてみました。ベースで弾

く和音は、ギターとは違った美しさがあると思います。僕がベースで和音を弾く際は、大体、“ルート・3度・7度”“ルート・5度・7度”の組み合わせが多いです。あとはコードによっては、6th (13th)・

9th・11thなどのテンションを混ぜることで、さらなる彩りを加えることもあります。右手は“親指・人差指・中指”をおもに使用して弾きましょう。

指が届かなければタッピング!

左の譜例の3小節4拍目で、1カ所だけタッピングしています。単純に、前の和音のフォームから、小指をC#まで移動させるのが厳しいためです(笑)。こんなときは、右手の人差指や中指でタップしちゃいましょう!

OUTRODUCTION

というわけで、連載第1回“ベースで歌う! アーティキュレーションの妙”いかがだったでしょうか!? 楽譜だと非常に難解に見えますが、そんなことはまったくありません。まずは、ゆくりでいいので、真似をしてみてください! 何度も何度も耳で聴いて、ニュアンスを感じてください。そして、いつしか慣れていんならぬ曲に応用できる頃には、きっとあなたにしかできない表現が見つかるはずですよ☆

講師プロフィール

MI JAPAN札幌校を卒業。その後、UK ROCK BAR「BRITS BEAT CLUB」にて、約3年半修行。2011年3月に北海道より上京。フリーのベーシストとしてサポートやセッション、ライブ活動を開始する。2012年には亀田誠治氏主催の第一回亀田杯でグランプリを獲得。現在は、ソロ・ベースの追求やジャンルを問わず、さまざまなアーティスト・ミュージシャンのサポート・ベーシストとして活動中! 【ブログ】 <http://ameblo.jp/meguro-198/> 【Facebook】 <https://www.facebook.com/ikuya.meguro> 【Twitter】 @Meguro_198!



レッスン内容を動画でチェック!

レッスン内容はYouTubeのMI JAPANチャンネルにて動画と運動! QRコードよりアクセスできるのでチェックしよう!



【MI JAPAN】 <http://www.mi-japan.com/>

【YouTube】 <http://www.youtube.com/user/musiciansinstituteja>